

農地所有適格法人が飼料生産部門を設立し、黒字経営に転換 (栃木県 (有) 那須野農産)

経緯

- ◆ 集落を単位とする集落営農型農業法人。「集落から耕作放棄地をださない。」をスローガンに平成18年設立。約8割の農地を管理。
- ◆ 米価に左右される不安定な経営が続き、新たな柱として、飼料作物の生産・販売を検討。
- ◆ 汎用飼料収穫機に多額の投資を行ったが、飼料生産部門の強化により黒字経営となる。

那須野農産の主要品目の作付面積

品目	R6面積(割合)	R7面積(割合)
主食用米	18.6ha(37%)	19.3ha(38%)
WCS用稲	25.2ha(50%)	27ha(53%)
青刈りとうもろこし	2ha(4%)	2ha(4%)
イタリアンライグラス	—	1.2ha(2%)
二条大麦	—	1.2ha(2%)
ライ麦	4.4ha(8%)	—
その他(野菜など)	0.7ha(1%)	0.4ha(1%)

※他に作業を受託(主食用米、稲WCS、イタリアン等)



飼料の生産・取引状況

- ◆ 酪農家との情報交換を密に行い、品質の良い飼料を生産、販売しているため、稲WCS等の生産物に対するクレームはほぼ無い。
- ◆ 令和3年に汎用型収穫機を導入と同時に飼料生産部門を強化。ライ麦と飼料用とうもろこしの作付を開始した。

課題への対応など

- ◆ 青刈りとうもろこしはカメムシの発生箇所との苦情があり、地域農業のため、防除の徹底や団地化等の工夫を実施している。
- ◆ 牛が消化困難な子実の割合が少ない極短穂系品種(つきはやか、つきすずか)のみを作付けしている。
- ◆ 微細断型汎用収穫機の利用、乳酸菌の添加、ラップの8層巻等により、輸送に強く1年保管しても品質の良い状態を保つ稲WCSを生産している。

【令和7年5月28日現在更新】